

J-POWERグループの沿革

J-POWERグループは、戦後の日本の電力不足を克服するため1952年に政府により設立されて以来、水力発電および火力発電による電力の卸売事業を展開するとともに、日本各地を結ぶ基幹送電線による電力の託送事業を行い、全国大の電力の安定供給に貢献してきました。

時代の要請

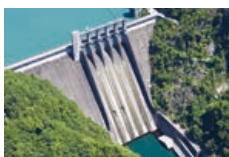
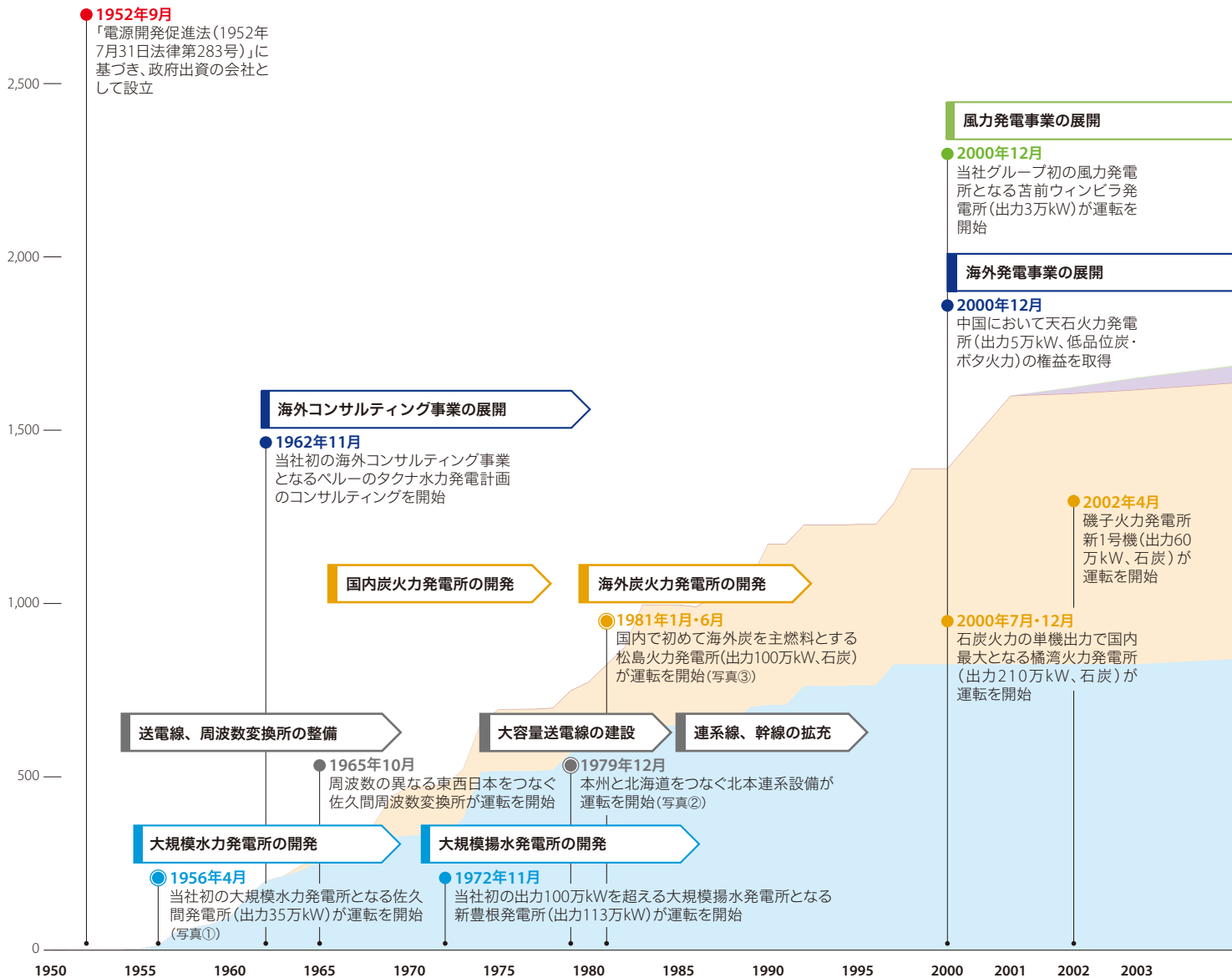
戦後電力不足の解消

オイルショックを契機とした電源の多様化

発電設備容量の推移

(万kW)

- 国内電気事業 (水力)
- 国内電気事業 (火力)
- 国内電気事業 (地熱)
- 海外発電事業
- 国内電気事業 (風力)



① 佐久間発電所運転開始



② 北本連系設備運転開始

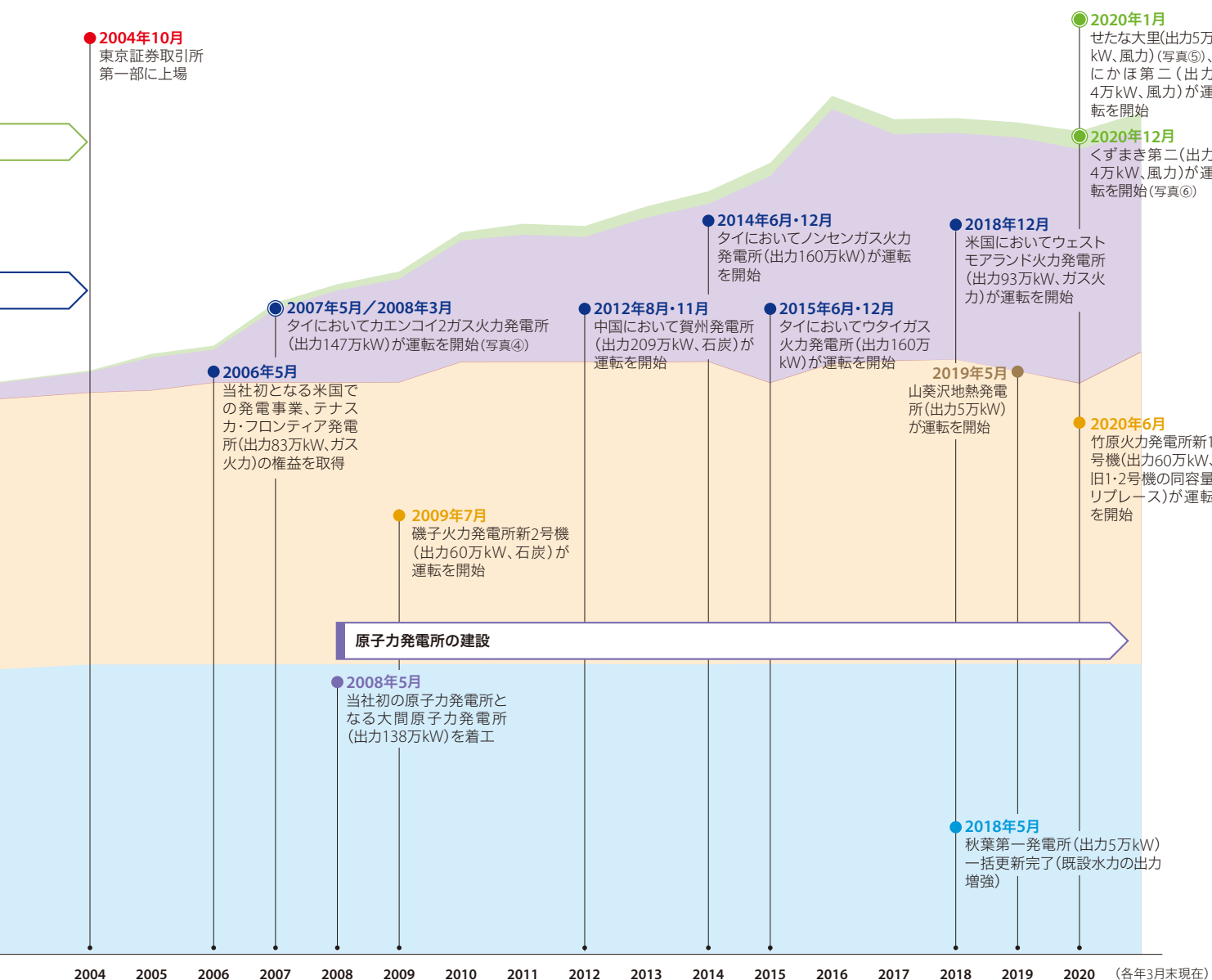


③ 松島火力発電所運転開始

2004年には、東京証券取引所第一部に上場して完全民営化し、成長が見込まれる海外での発電事業や、風力発電、地熱発電といった再生可能エネルギーの開発など、事業のフィールドを拡大してきました。

気候変動問題への対応

(注) 連結子会社および持分法適用会社の設備を含む
合計出力は各プロジェクトの総出力に当社の持分比率を乗じて算出



④ カエンコイ2ガス火力発電所運転開始



⑤ せたな大里ウインドファーム運転開始



⑥ くずまき第二風力発電所運転開始